

平成22年7月10日鎌倉市事業仕分け結果一覧

【1班】

事業番号		1-1			1-2	1-3		1-4	1-5	
事業名		市政功労者表彰・頌徳会・名誉市民事業			こども安全パトロール	子ども会館の運営		成人のつどい事業	自主防災組織活動育成費補助金	
H22年度予算額(千円)		6,499			19,827	266,564		4,215	9,743	
項目		新春のつどい(負担金)	頌徳会	市政功労者表彰・名誉市民事業	子ども会館	子どもの家				
仕分け人評価	不要	3	1	0	1	0	0	0	0	
	民間	0	3	0	3	1	1	1	0	
	国・県 (広域を含む)	0	0	0	0	0	0	0	0	
	要改善	2	2	5	2	4	4	4	5	
	現状維持	0	0	0	0	0	0	0	0	
結果		不要	民間	要改善	民間	要改善		要改善	要改善	
仕分け人コメント		<p>◇新春のつどいは市が関与する必要はなく、公費を出さずに会費制で実施すべきである。</p> <p>◇新春のつどいを知っている市民は少なく、市民の市政への意識高揚につながっている具体像が見えない。</p> <p>◇新春のつどいと頌徳会の懇親会を同時に開催することを検討すべきである。</p>	<p>◇現時点で頌徳会は市が主催すべきものではなく、任意団体にて行えばよい。</p> <p>◇頌徳会は会員の受益者負担(会費制)に委ねるべきである。</p>	<p>◇名誉市民選考委員会のあり方について、継続的に実施するか含め、見直しが必要である。</p> <p>◇名誉市民選考委員会の謝礼について、見直しが必要である。</p>	<p>◇行政が一律で行うよりも、地域が独自で担うように働き掛け、市民の力で守る事を柱に、パトロールを再構築する必要がある。</p> <p>◇地域の防犯体制全体がどうあるべきか、保護者、NPO、自治会などとの協議が必要である。</p> <p>◇ボランティア団体や町内会等に補助をして、市民主導の方法に変えるべきである。</p> <p>◇プラン作りは子どものいる親に考えてもらうべきである。</p> <p>◇硬直的に2人体制で実施すべきではない。</p> <p>◇新しい車両の購入はムダであり、町内会の車両の活用や、自転車の活用を検討すべきである。</p> <p>◇延長保育を19時まで対応するのに費用がかかるなら、町内会等のパトロールと調整して対応すべきである。</p> <p>◇町内会などの市内5団体が保有する他の青色(回転灯付)パトロールカー運用を含め、効率化すべきである。</p>	<p>◇市民との協働の可能性が高く、一部民間運営を入れていくことも考えるべきである。</p> <p>◇NPOとの協働やボランティアの活用について検討すべきである。</p> <p>◇指導員の資質の向上、維持に責任をもつように注意すべきである。</p> <p>◇他の施設の事業との重複整理が必要である。</p> <p>◇施設を全て立派にする必要はなく、空き教室を利用すればよい。</p>	<p>◇厚生労働省の指針にとらわれないうようにする必要がある。</p> <p>◇市民との協働の可能性は高く、一部民間運営を入れていくことも考えるべきである。</p> <p>◇公設民営やNPOなど、運営主体の見直しが必要である</p> <p>◇NPOとの協働やボランティアの活用についても検討すべきである。</p> <p>◇施設を全て立派にする必要はなく、空き教室を利用すればよい。</p> <p>◇利用料金を値上げする事も検討してよいのでは。</p>		<p>◇企画段階から実行委員が関わり、新成人によって実施できる手法とすべきである。</p> <p>◇市は財政面での支援や実施のサポートを担うべきである。</p> <p>◇実施後のアンケートを行い、実施内容やメニューの見直しが必要である。</p> <p>◇「成人のつどい」の参加率を高めるための高い値段のアトラクションは必要ない。</p>	<p>◇ソフト面の事業をもっと重要視していく必要がある。</p> <p>◇標準的な整備水準の設定と充足状況の把握により、優先順位の決定などの基準を設ける必要がある。</p> <p>◇事業費に比べて人件費が高い。</p> <p>◇標準対象品リスト(品目、他組織例の単価)を整備、公開し、それらが通常単価以下であれば購入申込書で足りるといった簡素な運用とすべきである。</p> <p>◇防災弱者のハザードマップの作成と配布が必要である。</p>

※平成22年度予算額は、平成22年度予算事業費と予算人件費で算出しています。
 ※仕分け人(5人)の評価が同数の場合、コーディネーターが1票入れ仕分け結果となります。

【1班】

事業番号	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	1-11
事業名	防犯アドバイザー事業	教職員福利厚生事業委託料	学校技能員非常勤嘱託員	小学校警備委託業務	学校施設アラーム等警備業務委託	学校施設管理業務委託
H22年度予算額(千円)	5,212	6,469	38,221	38,641	18,720	24,852
項目						
仕分け人評価	不要	0	2	1	0	4
	民間	0	0	0	1	0
	国・県 (広域を含む)	0	3	0	0	0
	要改善	5	0	4	4	1
	現状維持	0	0	0	0	0
結果	要改善	国・県・広域	要改善	要改善	不要	不要
仕分け人コメント	<p>◇パトロール事業に意義を見出すなら、他のパトロール事業を含めたスリム化を図るべきである。</p> <p>◇警察の役割、市役所の役割、市民の役割を整理し、青パト、学校警備員も整理すべきである。</p> <p>◇防犯活動の支援にアドバイザー業務を特化すべきである。ただし、毎日の様に現地で行う必要があるのか検討する必要がある。</p> <p>◇OBの再就職先を作っているという印象を受ける。</p>	<p>◇県職員の福利厚生費用は県で賄うべきであり、県域で見直す必要がある。</p> <p>◇市は上乗せで支出すべきではない。</p> <p>◇事業として実施している内容はレクリエーションであり、公費で行う必要はない。会費をとってやればよい。</p> <p>◇教職員の元氣回復・モチベーション維持につながっているという裏付けが必要である。</p>	<p>◇休業時(夏休み等)の勤務内容の見直しが必要である。</p> <p>◇「小学校警備委託業務」「学校施設アラーム等警備業務委託」「学校施設管理業務委託」を含めて総合的に体制を整える必要がある。</p> <p>◇2名体制が本当に必要な考えべきである。</p>	<p>◇「小学校警備委託業務」「学校施設アラーム等警備業務委託」「学校施設管理業務委託」を含めて総合的に体制を整える必要がある。</p> <p>◇学校施設全体の管理の手法、担い手について、市としての基本的な考え方を整理し、最適化すべきである。</p> <p>◇競争性を確保してコストを下げる必要がある。</p>	<p>◇「小学校警備委託業務」「学校施設アラーム等警備業務委託」「学校施設管理業務委託」を含めて総合的に体制を整える必要がある。</p> <p>◇学校施設全体の管理の手法、担い手について、市としての基本的な考え方を整理し、最適化すべきである。</p> <p>◇ハード(アラーム設備の設置)とサービス(警備業務)の複合型サービスについては、ハードによる囲い込み(業者選定の固定)がなされないように留意することが重要である。</p> <p>◇近隣住民の協力を得て対応できないか検討すべきである。</p>	<p>◇「小学校警備委託業務」「学校施設アラーム等警備業務委託」「学校施設管理業務委託」を含めて総合的に体制を整える必要がある。</p> <p>◇学校施設全体の管理の手法、担い手について、市としての基本的な考え方を整理し、最適化すべきである。</p> <p>◇シルバー人材センターへ委託する目的を明確にする必要がある。</p> <p>◇地域ボランティアへの委託を検討すべきである。</p>

平成22年7月10日鎌倉市事業仕分け結果一覧

【2班】

事業番号	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5
事業名	生ゴミ処理機購入費補助金	深夜花火巡回警備業務	再生利用施設啓発事業	緑化啓発に関する業務委託	観光振興支援事業
H22年度予算額(千円)	12,000	2,148	4,731	6,099	29,209
項目					
仕分け人評価	不要	2	0	3	0
	民間	0	0	1	0
	国・県 (広域を含む)	0	0	0	0
	要改善	3	5	2	5
	現状維持	1	0	0	0
結果	要改善	要改善	不要	要改善	要改善
仕分け人コメント	<p>◇導入の目的と効果、成果について、再度調査すべきである。</p> <p>◇今後のバイオマスエネルギー回収施設の稼働を含め、ごみの削減施策と生ゴミ処理機普及の相関関係を明確にする必要がある。</p> <p>◇生ゴミ処理機の導入により、ごみ処理処分費が下がるとは思えない。</p> <p>◇環境意識の啓発が目的であれば、高額・高補助率の補助は不適當である。</p> <p>◇CO2削減との関係から、電動型は対象外とすべきである。</p>	<p>◇鎌倉の地理的条件などから必要性があることは認識できる。</p> <p>◇警察との連携、条例の改正など、引き続き工夫・改善をしてもらいたい。</p> <p>◇より安く効率的に委託できないか検討すべきである。</p> <p>◇市条例に罰則規定の導入を検討すべきである。</p> <p>◇花火禁止看板なども工夫すべきである。</p>	<p>◇特定のNPO法人への長期・継続的な「委託事業」としての事業はいったん廃止すべきである。</p> <p>◇市民レベルのリサイクル活動を市として支援するのであれば、競争的な補助金制度とする必要がある。</p> <p>◇政策効果が見えにくいリサイクルの向上策、誘導策を明示すべきである。</p> <p>◇委託としての基本的なスペックを満たしておらず、仕様・積算基準・評価を確実に行う必要がある。</p> <p>◇NPO法人への補助と区分けて、本事業は大幅に縮減すべきである。</p> <p>◇現状をまったく知らなかった。効果が伝わらなかった。</p> <p>◇支出方法は、見直すべきである。</p>	<p>◇事実上、市の公園、樹林地だけを対象とする現行スキームではなく、民有地を含む市の樹林全体の保全、管理を目的に、市民ボランティア活動を活性化する取組として進めるべきである。</p> <p>◇現行のグリーンバンク制度は廃止すべきである。公園協会への委託方式で良いか検討する必要がある。</p> <p>◇事業目的を明確にする必要がある。啓発事業は民間等、他の団体にゆだねるべきである。</p> <p>◇森林保全等、緑の保全をどう考えるかに焦点をあてる必要がある。</p> <p>◇「目的と手法を決めて、やり方を見直しながら取組み、評価し改善する」といった流れがない。全般にまいである。</p> <p>◇必要な事業であり、森林のデータを整理することで細かな議論が出来る。</p> <p>◇放置されている森林保全のみの事業とすべきである。</p>	<p>◇武家政治発祥の地、古都鎌倉というコンセプトを磨く事に重点化し、取組の見直しが必要である。</p> <p>◇現行のフェスティバルや花火大会は民間が担い、俳句&ハイクは必要であれば文化事業として取り組めばよい。</p> <p>◇イベントに対する費用対効果の検証、自主財源確保の努力が必要である。</p> <p>◇鎌倉の資源の発掘と気付きが重要である。</p> <p>◇事業の重点化が必要である。お金に余裕があるという感じがぬぐえない。</p> <p>◇市はコンセプト及び環境作りに特化し、実施は協会等に完全委託すべきである。</p> <p>◇花火大会の財源確保が難しいのであれば、他市との合同開催で、2年に1度の開催などを検討してもよいのではないかと。</p> <p>◇観光は大事であり頑張ってもらいたい。</p>

※平成22年度予算額は、平成22年度予算事業費と予算人件費で算出しています。
 ※仕分け人(5人)の評価が同数の場合、コーディネーターが1票入れ仕分け結果となります。

【2班】

事業番号		2-6	2-7	2-8	2-9
事業名		鎌倉青果地方卸売市場関係補助金	男女共同参画啓発事業及び女性センター運営事業	鎌倉市交通安全対策協議会補助金	パークアンドライド等実施PR委託
H22年度予算額(千円)		6,048	8,407	16,050	6,168
項目					
仕分け人評価	不要	3	0	0	3
	民間	0	0	0	0
	国・県 (広域を含む)	1	0	0	0
	要改善	1	5	5	2
	現状維持	0	0	0	0
結果		不要	要改善	要改善	不要
仕分け人コメント		<p>◇本来は民間が担う「流通市場」の問題である。直ちに廃止することは困難であるとしても、統廃合を視野に周辺の自治体等との協議を進めるべきである。</p> <p>◇生産者への出荷意欲向上と集荷促進という本来の目的を果たせるような状況にはない。</p> <p>◇市場の存否を含めて検討すべきだが、少なくとも当該施策の積極的意味はないと考える。抜本的改革をすべきである。</p> <p>◇取扱い規模の少ない市場による不効率を解消するために、抜本的な改革が必要である。</p> <p>◇取扱量が減少しているのに補助金が増加しているのはおかしいので、市場のあり方を改善する必要がある。</p>	<p>◇「女性センター」という箱物は不要である。(男女共同参画センターに名前を変えても同じ)</p> <p>◇一般的な啓発事業の時代は終わっており、具体的に発生している事案に対する有効な取組が必要である。</p> <p>◇アンサンプル21との関係が曖昧である。フォーラムなどについて、県等との重複は避けるよう検討すべきである。</p> <p>◇人権・男女共同参画課として、オピニオンリーダーとしての役割を果たしていくべきである。</p>	<p>◇交通安全キャンペーンが総じてマンネリ化しており、支出内容から見直す必要がある。</p> <p>◇補助金支出先の事務局機能を市が受け持つことは問題があり改善すべきである。</p> <p>◇(神奈川)県警との取組体制について見直すべきである。</p> <p>◇交通安全は法的にも整備されてきている。年末・年始、初詣警備等は観光協会等とタイアップし、総合して効率化を図るべきである。</p> <p>◇年度毎の具体的な目標数値と中身を示す必要がある。</p> <p>◇グッズの話が多く、交通安全の効果をもう少し充実してほしいと思う。</p>	<p>◇現行の駐車場の立地でパークアンドライドのPRを実施しても、市街地に車を呼び込むことになる。</p> <p>◇PRはいったん廃止し、街中に車を呼び込まないという政策目的を達成できる手法を組み立て直すべきである。</p> <p>◇「環境手形」のPR・充実をはかるべきである。</p> <p>◇パークアンドライド利用者に関する分析が必要である。</p> <p>◇渋滞解消のための事業であれば、そもそも必要ない。</p> <p>◇公共交通機関の利用を促す施策を展開すべきである。</p>

平成22年7月10日鎌倉市事業仕分け結果一覧

【3班】

事業番号	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5
事業名	小児医療助成事業	二次救急医療確保対策事業	キット健康診査事業	食育事業	高齢者割引乗車証等購入費補助金
H22年度予算額(千円)	450,919	99,759	9,821	13,495	25,048
項目					
仕分け人評価	不要	1	0	1	3
	民間	0	0	0	2
	国・県 (広域を含む)	0	0	0	0
	要改善	4	5	3	0
	現状維持	0	0	1	0
結果	要改善	要改善	要改善	不要	不要
仕分け人コメント	<p>◇医療費の助成については、所得制限が必要である。(高額所得者に対する補助の必要性について)</p> <p>◇所得制限のあり方など、制度設計に関する検討が不十分な印象があった。</p> <p>◇本制度について、経済支援対策から子育て支援対策に目的が変わってきている。子育て支援対策は、他の施策で実施すべきではないか。</p> <p>◇医療費の助成制度は市町村が独自の政策として、様々な形で助成している実態がある。自治体間でのサービス合戦になってしまうなど、制度の格差について考える必要がある。</p> <p>◇過度の助成制度は、気軽に受診するコンビニ受診の助長や財政負担の増加につながる。</p>	<p>◇休日、夜間における救急医療体制を確保するために病院へ業務を委託しているが、複数の病院による輪番方式と単独の病院による単独方式で委託金額の差があるので検討する必要がある。</p> <p>◇医療機関が対応した患者に係るコストの内容などを精査すれば、コスト削減が図れるのではないか。</p> <p>◇救急医療が必要な時に、確実に病院に運ばれ、待ち時間がどのようになっているかなどの実績を調査して、輪番方式、単独方式の価格の見直しや受入体制を考えてほしい。</p> <p>◇(重症度に応じた)初期・二次・三次の救急医療の連携、あるいは地域的連携も考える必要がある。</p>	<p>◇自己負担額の増額を含めて、今後の事業をどうしていくか明らかにしたうえで、現状での事業の期限を定めるべきである。</p> <p>◇これまでの分析結果を踏まえ、対策の対象を絞り込み、より効果的・効率的な事業とすべきである。また、結果を踏まえ、次の対策を早急に考える必要がある。</p> <p>◇考え方、取組は評価できる。対象とする市民を絞り込むことにより効率性の向上を目指すべきである。</p> <p>◇自己負担もあり、費用を抑えるように設計されており、良い事業だと感じる。成果として医療費の削減につながったか検証する必要がある。</p>	<p>◇食育はもちろん必要であるが、市内でNPO等が自発的に、活発的に活動している中、食育クラブ員の養成を主体とした事業を鎌倉市として実施すべきかは疑問である。</p> <p>◇調査で実施予定のアンケート項目も本日の議論を踏まえて工夫すべきである。食育全体の見直しが必要である。</p> <p>◇今のやり方では不要である。食育事業を実施するにあたって、効果的な事業の実施方法など、根本的に見直す必要がある。鎌倉市としての食育の目的が不明確である。</p>	<p>◇事業(補助)の範囲について見直す必要がある。</p> <p>◇外出目的を作る施策にシフトすべきである。</p> <p>◇一度廃止して、高齢者施策全体の中で事業を考えるべきである。</p> <p>◇経済効果の創出を考えたいうえで拡充するべきである。</p> <p>◇バス会社との交渉を進め、補助を出すならもっと使いやすいようにする必要がある。</p> <p>◇年齢を引き下げていく方向で検討すべきである。</p>

※平成22年度予算額は、平成22年度予算事業費と予算人件費で算出しています。
 ※仕分け人(5人)の評価が同数の場合、コーディネーターが1票入れ仕分け結果となります。

【3班】

事業番号		3-6	3-7	3-8	3-9	3-10
事業名		鎌倉市シルバー人材センター運営費補助金	配食サービス事業	高齢者入浴助成事業	デイ銭湯事業	公衆浴場設備整備費補助金
H22年度予算額(千円)		54,666	14,093	20,952	20,579	2,831
項目						
仕分け人評価	不要	3	0	4	5	0
	民間	1	1	0	0	1
	国・県 (広域を含む)	0	0	0	0	0
	要改善	2	4	1	0	3
	現状維持	0	0	0	0	1
結果		不要	要改善	不要	不要	要改善
仕分け人コメント		<p>◇収入確保策、抜本的コスト削減策を段階的に講じながら、将来的には補助金0を目指すべきである。</p> <p>◇シルバー人材センターとしての自立を目指すように市(補助者)として指導すべきである。</p> <p>◇民間との競合、経営自己責任の観点から不要である。</p> <p>◇700名に対し、5000万円もの補助金の支出は大きすぎる。</p>	<p>◇対象者への周知徹底がされておらず、周知方法・対象者の把握が必要である。</p> <p>◇コストや対象者数を把握し、自己負担の水準や事業費の水準を決定すべきである。</p> <p>◇契約方法を見直すべきである。</p> <p>◇民間ができない部分(減塩食など)があるのなら、その部分は継続すべきであるが、本来は民間事業者に任せるべき事業である。</p> <p>◇低い利用率では、政策目的が達していない事になる。</p>	<p>◇一旦廃止すべきである。</p> <p>◇政策の目的を明らかにした上で、事業の位置付けを考えなおす必要がある。</p> <p>◇地域間のサービスの格差は改善が必要である。</p> <p>◇低い利用率の改善の見込みがない。</p> <p>◇政策目的達成の有効な手段とは言えない。</p> <p>◇個人のリラクゼーションのために助成する必要はない。</p>	<p>◇一旦廃止すべきである。</p> <p>◇政策の目的を明らかにした上で、事業の位置付けを考えなおす必要がある。</p> <p>◇他のメニューで補われているものであり、他の施設で実施されることにより、より大きな効果が期待される。</p> <p>◇高いコストをかけている割に参加率70~80%は疑問であり、政策目的達成の有効な手段とは言えない。</p> <p>◇同じ事業効果を望むのであれば、福祉関係の施策を検討する必要がある。</p>	<p>◇公衆浴場のネットワークを確保するためには、他事業の方向性を踏まえた対応が必要である。</p> <p>◇将来の公衆浴場のあり方を描いた上で、市民の入浴機会を確保すべきである。</p> <p>◇単純な補助金として支出するのではなく、他の目的が必要である。</p> <p>◇家にお風呂がない市民へのサービスとして、明確な政策目的が必要である。</p> <p>◇自助努力を促す必要がある。</p>